【QLife痛み】

痛み治療に関する情報提供についての患者調査
結果報告書

平成25年9月30日

株式会社QLife（キューライフ）

Copyright © QLife, Inc. All Rights Reserved.

調査背景

痛みの薬物治療における第一選択として用いられることの多いNSAIDs（非ステロイド性抗炎症薬）。優れた消炎鎮痛効果がある一方で、消化管障害など副作用を起こしやすい薬剤もある。そのため処方時には、「痛みの治療」以外で、他の医師に受療中の疾患・症状がないか、その処方内容は何かなどを確認することが重要である。同時に、副作用の可能性などについて医師・薬剤師からしっかりと説明がなされなければならない。

特に最近ではNSAIDsが市販（第一類医薬品）されるようになり、かつそのネット販売が本格検討されるなど、NSAIDs服薬者のすそ野は広がる傾向にある。

そのため、患者側・医師側からの情報提供がどの程度されているのか、実態を確認する調査を行った。NSAIDsの副作用リスクが比較的高い既往（※）を持ちながら、「痛みの治療」で整形外科を受診している患者を対象にアンケートを行い、269人から回答を得た。

※「高血圧」「胃、十二指腸潰瘍」「脂質異常症」「糖尿病」「肝障害」「腎障害」「気管支喘息」「潰瘍性大腸炎」「心房細動」

結論概要

今回の調査で、「患者」「整形外科医」「内科的疾患の治療医」の3者間で必ずしも情報共有がなされていない実態が明らかとなった。患者にしてみれば「整形外科での治療」と「内科系での治療」の間に関連性は想像しにくいため、相互作用などに関する周知が今後望まれる。さらに整形外科医師は内科系医師に比べてあまり副作用リスクを説明しないことが明らかになった。

調査結果概要

1）整形外科医に、「痛み以外の」治療疾患があることを伝えた患者は77%、
内科系医師に、「痛みの治療」をしていることを伝えた患者は63%
特に「整形外科→内科」情報が伝わりにくいのは「腎障害」「気管支喘息」「心房細動」患者で、逆に「内科→整形外科」情報が伝わりにくいのは「腎障害」「気管支喘息」「脂質異常症」の患者であった。

2）鎮痛剤の副作用リスクについて、整形外科医から「説明があった」患者は55%で、
内科系医師から「説明があった」67%よりも低い
特に「潰瘍性大腸炎」「胃、十二指腸潰瘍」「高血圧」の患者では、整形外科・内科系間の説明度合いに差異が大きかった。

Copyright © QLife, Inc. All Rights Reserved.

【調査実施概要】

▼調査主体
株式会社QLife(キューライフ)

▼実施概要
(1) 調査対象: 首・肩・腰・膝の痛みで過去1年以内に整形外科を受診し、かつ同時期に、「高血圧」「胃、十二指腸潰瘍」「脂質異常症」「糖尿病」「肝障害」「腎障害」「気管支喘息」「潰瘍性大腸炎」「心房細動」のいずれかの疾患で医療機関にて治療を受けている患者
(2) 有効回収数:269人
(3) 調査方法:インターネット調査
(4) 調査時期: 2013/8/ 19～2013/ 8 / 26

▼有効回答者の属性
(1)年代:

年代	男性	女性	n
20代	1	2	3
30代	11	15	26
40代	49	31	80
50代	57	21	78
60代	48	6	54
70代	25	1	26
80代以上	2	0	2
総計	193	76	269

年代	男性	女性	%
20代	0.5%	2.6%	1.1%
30代	5.7%	19.7%	9.7%
40代	25.4%	40.8%	29.7%
50代	29.5%	27.6%	29.0%
60代	24.9%	7.9%	20.1%
70代	13.0%	1.3%	9.7%
80代以上	1.0%	0.0%	0.7%
総計	100.0%	100.0%	100.0%

(2) 居住地:

北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県
8.6%	1.1%	0.4%	2.6%	0.4%	0.7%	0.4%	1.5%	1.1%	0.7%
埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	富山県	石川県	福井県	山梨県	長野県
7.8%	6.7%	19.3%	9.7%	1.5%	0.7%	1.1%	0.4%	0.7%	0.7%
岐阜県	静岡県	愛知県	三重県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
0.4%	3.0%	4.1%	0.4%	0.4%	2.2%	5.6%	4.1%	0.7%	1.1%
鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県
0.0%	0.0%	0.4%	1.9%	1.1%	0.7%	1.1%	1.1%	0.0%	3.7%
佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県			
0.0%	0.4%	0.0%	0.4%	0.4%	0.0%	0.7%			

Copyright © QLife, Inc. All Rights Reserved.

▼有効回答者の属性（続き）
（3）処方薬剤

	n	%
ロキソニン	186	78.5%
セレコックス	15	6.3%
ボルタレン	52	21.9%
ペオン	1	0.4%
ハイペン	5	2.1%
モービック	1	0.4%
ロルカム	7	3.0%
ポンタール	8	3.4%
ブルフェン	3	1.3%
ソレトン	3	1.3%
その他	23	9.7%
小計	237	128.3%
薬剤名がわからない（排他）	32	11.9%
総計	269	

（4）痛み治療と並行して治療を行っている疾患

	n	%
高血圧	106	39.4%
胃、十二指腸潰瘍	77	28.6%
脂質異常症	38	14.1%
糖尿病	38	14.1%
肝障害	17	6.3%
腎障害	10	3.7%
気管支喘息	95	35.3%
潰瘍性大腸炎	7	2.6%
心房細動	24	8.9%
小計	269	153.2%

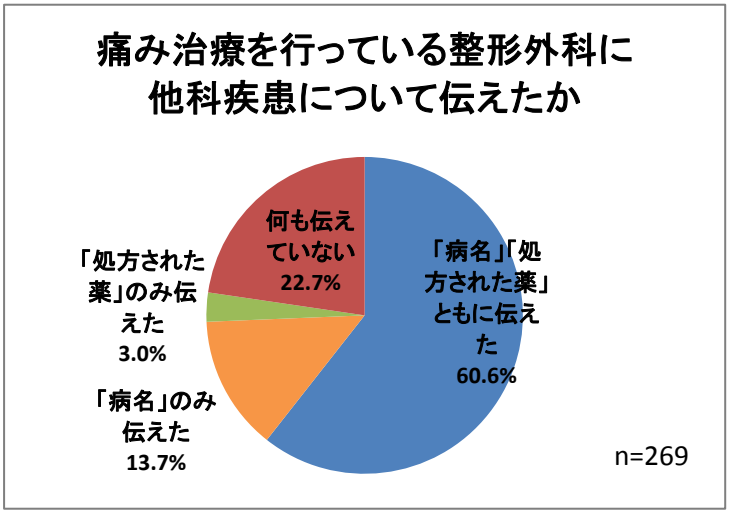
Copyright © QLife, Inc. All Rights Reserved.

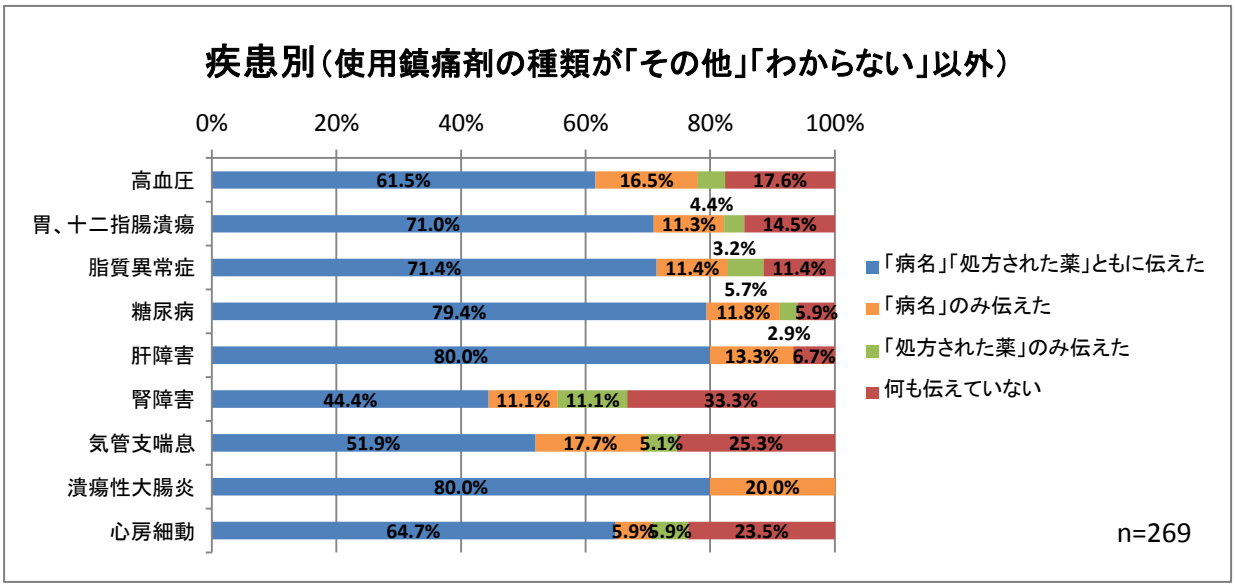
【Q1】首・肩・腰・膝の痛み治療を行っている整形外科に、治療中の疾患があることを伝えましたか。

整形外科に「他科で治療中の疾患があること」「処方された薬」の双方を伝えている患者は約6割にとどまっており、約4割の患者は自身の治療情報を完全には伝えていない。さらに、そのうちの約半数が整形外科に対し、「何も伝えていない」ことが分かった。疾患別では「腎障害」「気管支喘息」「心房細動」で「何も伝えていない」患者が多く存在した。

n=269

	n	%
「病名」「処方された薬」ともに伝えた	163	60.6%
「病名」のみ伝えた	37	13.7%
「処方された薬」のみ伝えた	8	3.0%
何も伝えていない	61	22.7%
総計	269	100.0%





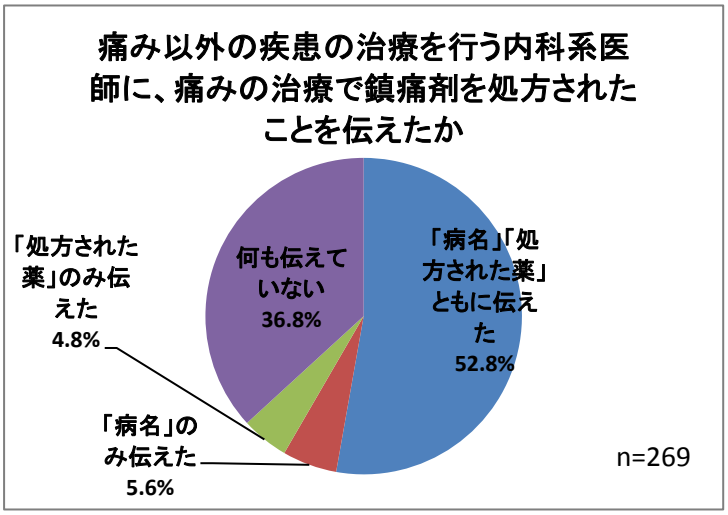
Copyright © QLife, Inc. All Rights Reserved.

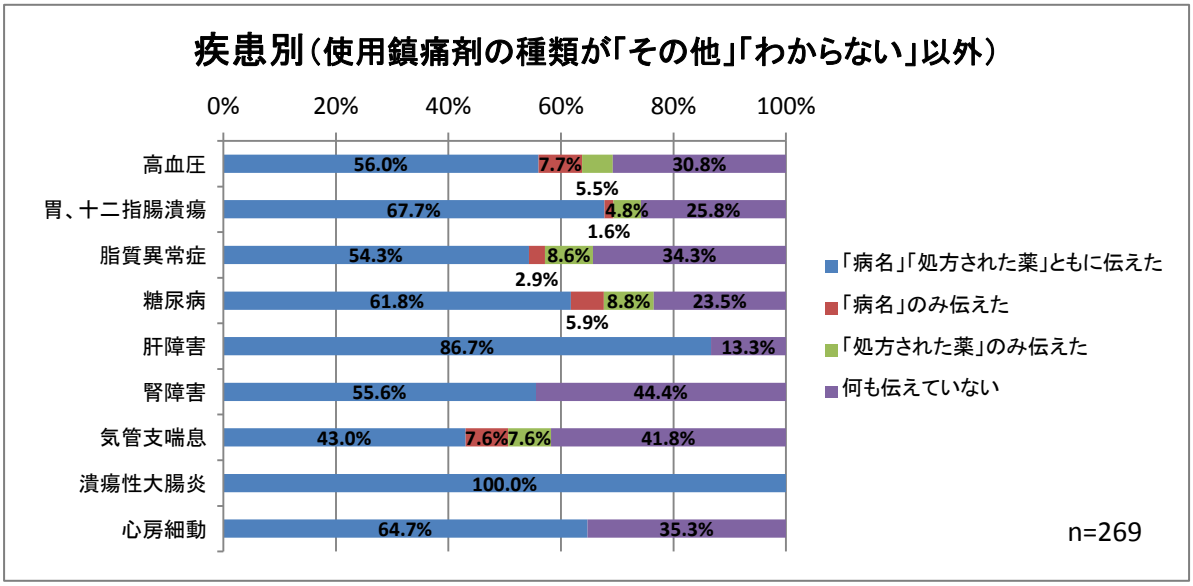
【Q2】痛み以外の疾患の治療を行う内科系医師に、首・肩・腰・膝の痛みの治療で整形外科から鎮痛剤を処方されたことを伝えましたか。

「病名」「処方された薬」ともに伝えたと回答した患者は半数弱にとどまり、約3人に1人の患者が、整形外科で治療していることも処方された薬についても「何も伝えていない」ことが分かった。疾患別では「腎障害」「気管支喘息」「脂質異常症」の患者に「何も伝えていない」割合が多かった。

n=269

	n	%
「病名」「処方された薬」ともに伝えた	142	52.8%
「病名」のみ伝えた	15	5.6%
「処方された薬」のみ伝えた	13	4.8%
何も伝えていない	99	36.8%
総計	269	100.0%

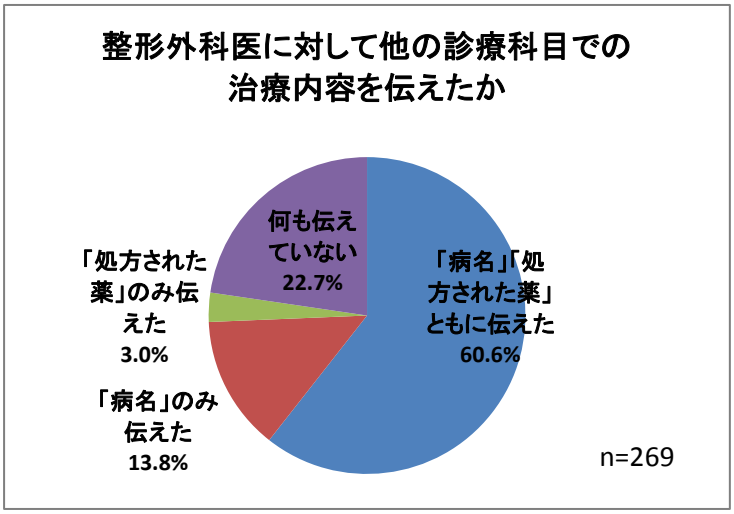


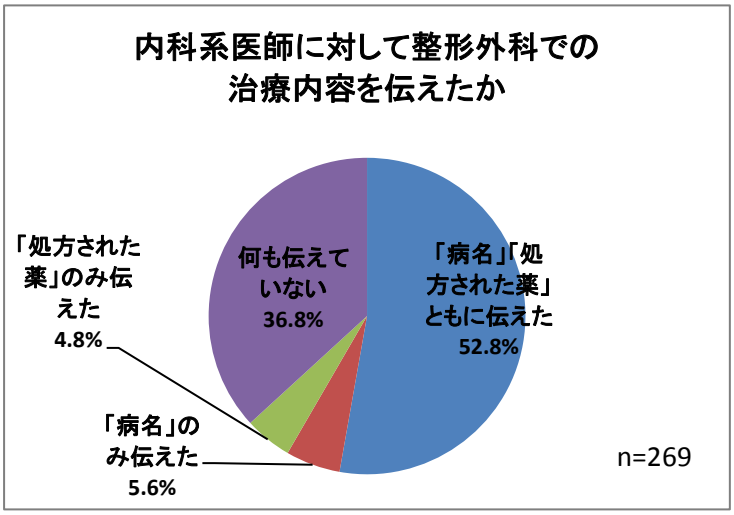


Copyright © QLife, Inc. All Rights Reserved.

【比較1】「患者→医師」の情報伝達（全体）

整形外科医に対して「痛み以外」の治療中疾患があることを伝えた患者は77.3%で、逆に内科系医師に対して「痛みの治療」をしていることを伝えた患者は63.2%であった。患者は「整形外科医師」に対して、「内科系医師」よりも情報提供をしない傾向にあることが分かった。

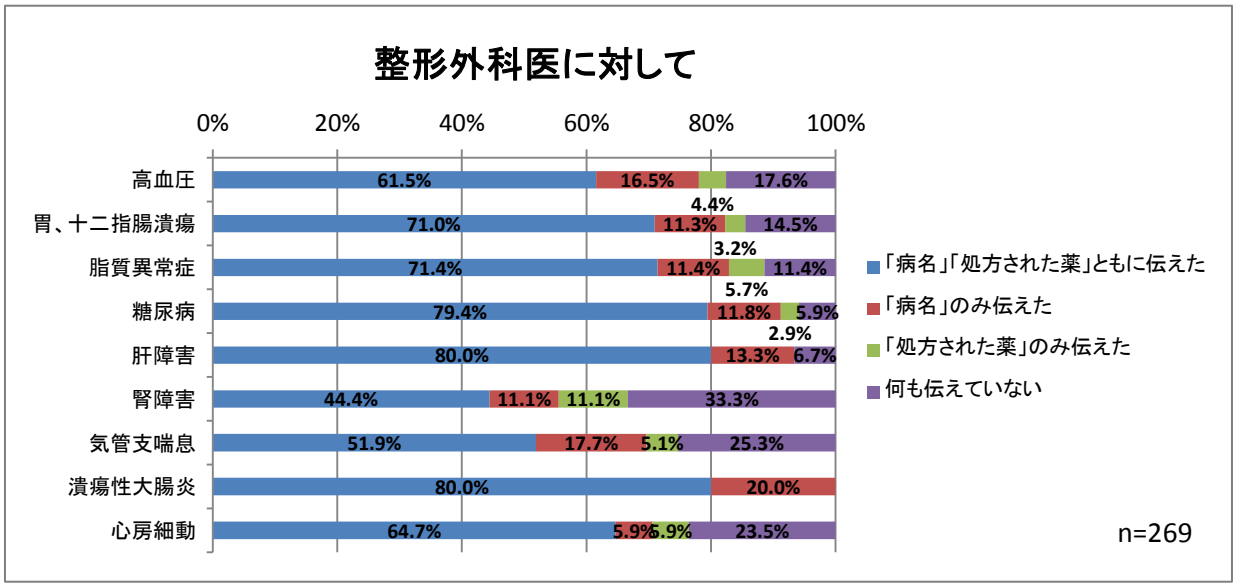


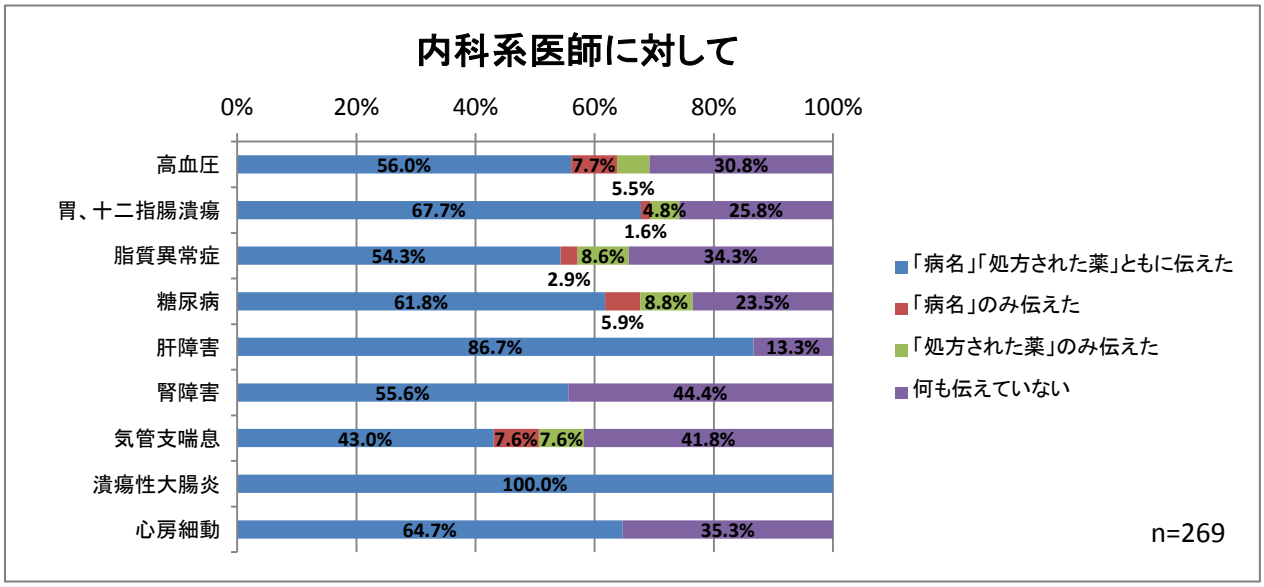


Copyright © QLife, Inc. All Rights Reserved.

【比較1】「患者→医師」の情報伝達（疾患別）

「何も伝えていない」患者の割合が、対整形外科と対内科系医師との間で差異が大きかったのは「脂質異常症」「糖尿病」「気管支喘息」「高血圧」だった。





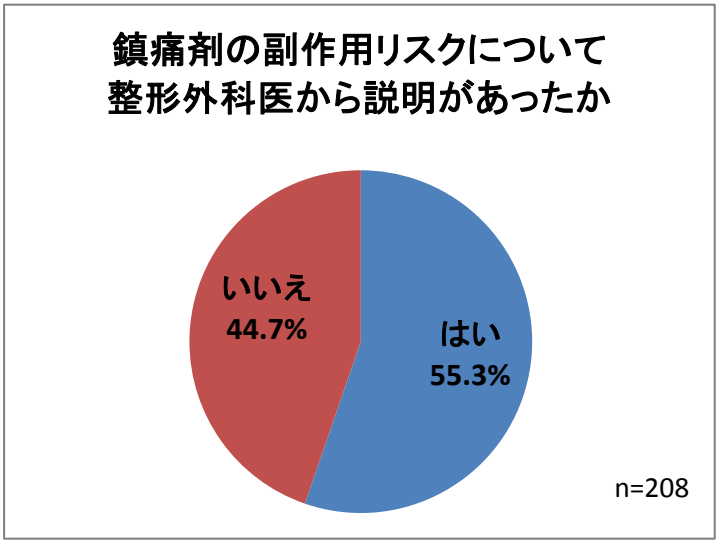
Copyright © QLife, Inc. All Rights Reserved.

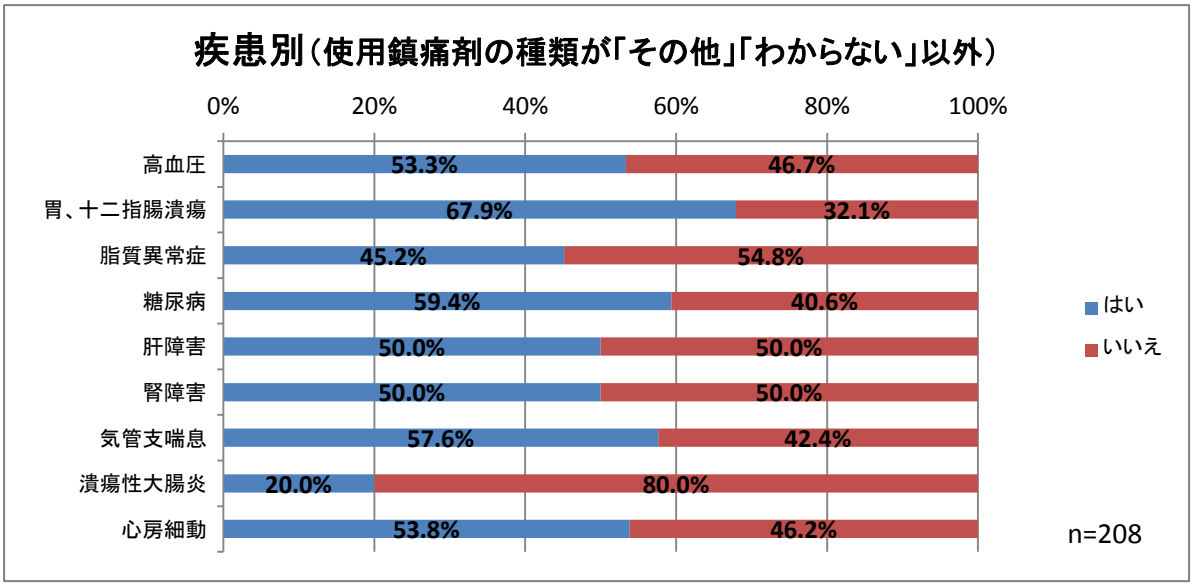
【Q3】（Q1で「伝えた」と回答した患者対象）
整形外科に、「他科で治療中の疾患もしくは他科から処方された薬がある」ことを伝えた際に、鎮痛剤の服用には副作用リスクがあることについて、整形外科医から説明がありましたか。

整形外科医からの鎮痛剤処方における副作用リスク説明は、「他科で治療中」と伝えた患者に限っても、半数強でしかなされていない。

n=208

	n	%
はい	115	55.3%
いいえ	93	44.7%
総計	208	100.0%





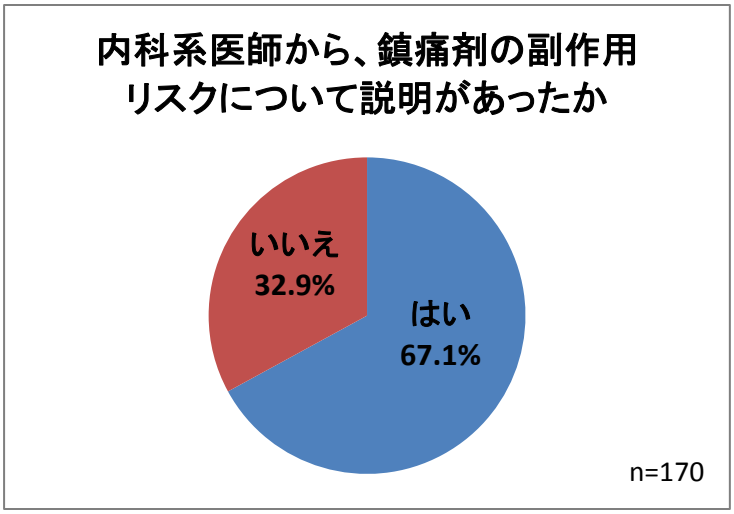
Copyright © QLife, Inc. All Rights Reserved.

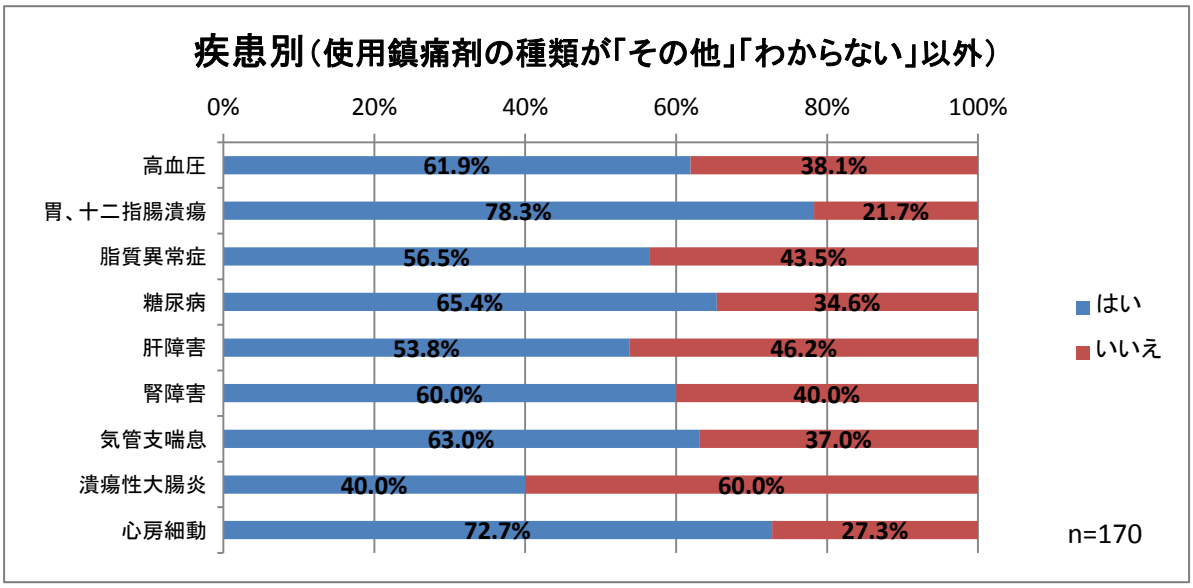
【Q4】（Q2で「伝えた」と回答した患者対象）
「痛み以外の疾患を治療中の医療機関」の内科系医師から、鎮痛剤の服用には副作用リスクがあることについて、説明がありましたか。

約3人に2人が鎮痛剤の副作用について説明を受けている。最も多かったのが「胃、十二指腸潰瘍」患者で、75%以上の患者が「説明を受けた」と回答した。

n=170

	n	%
はい	114	67.1%
いいえ	56	32.9%
総計	170	100.0%

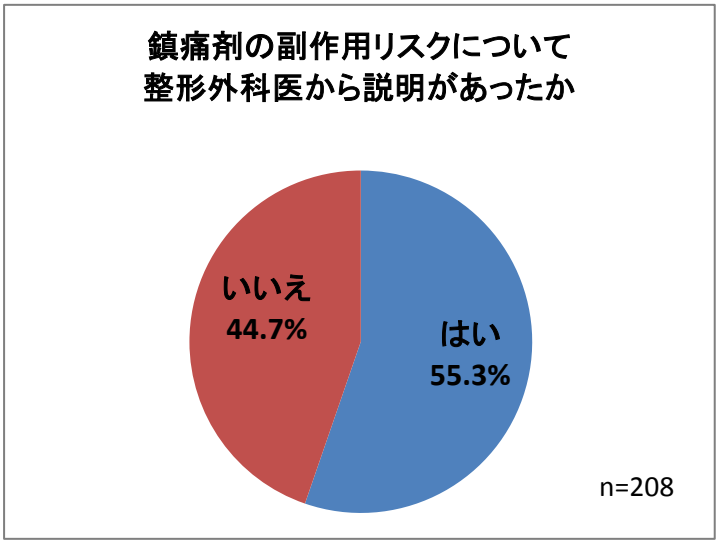


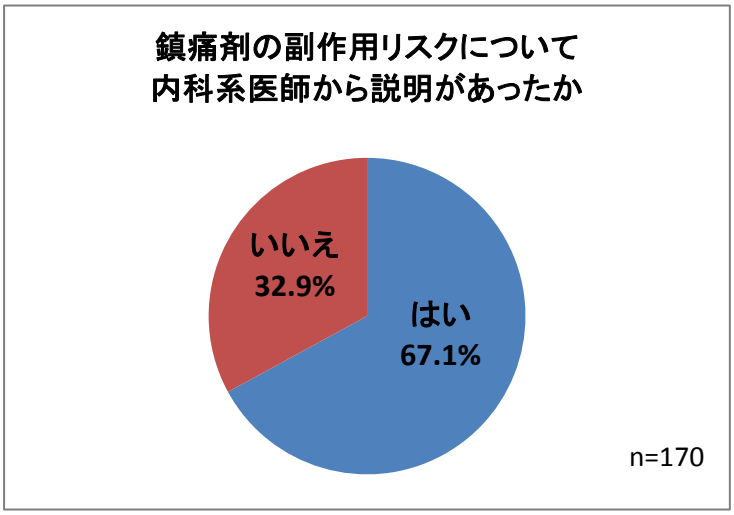


Copyright © QLife, Inc. All Rights Reserved.

【比較2】「医師→患者」の鎮痛剤副作用リスクの情報伝達（全体）

鎮痛剤の副作用リスクについて、整形外科医から説明が「あった」患者は55.3%。一方で、内科系医師から説明が「あった」患者は67.1%であった。

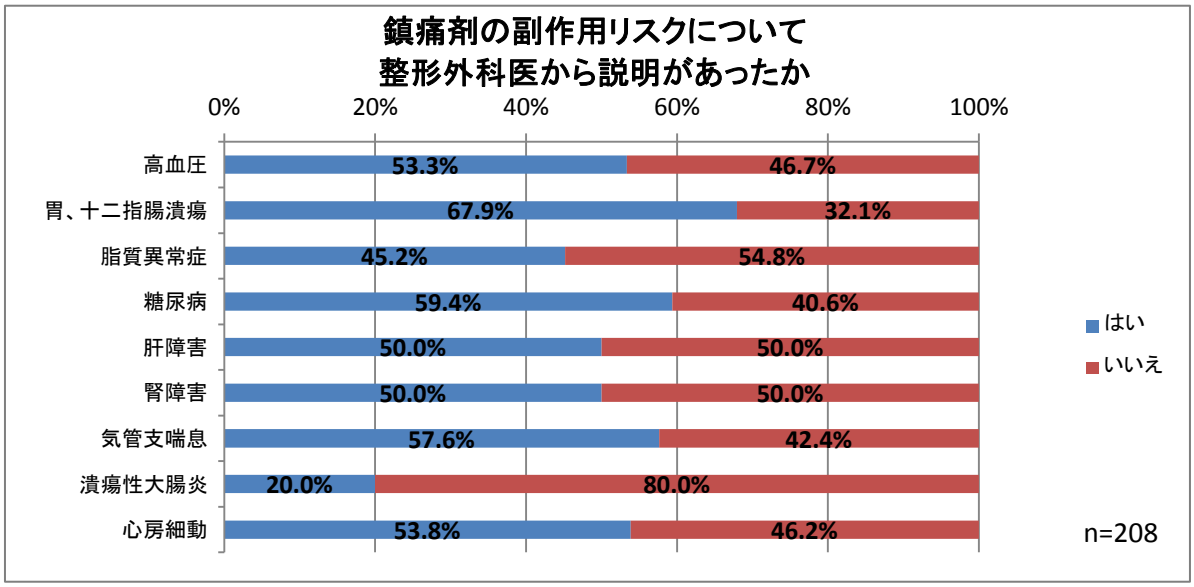


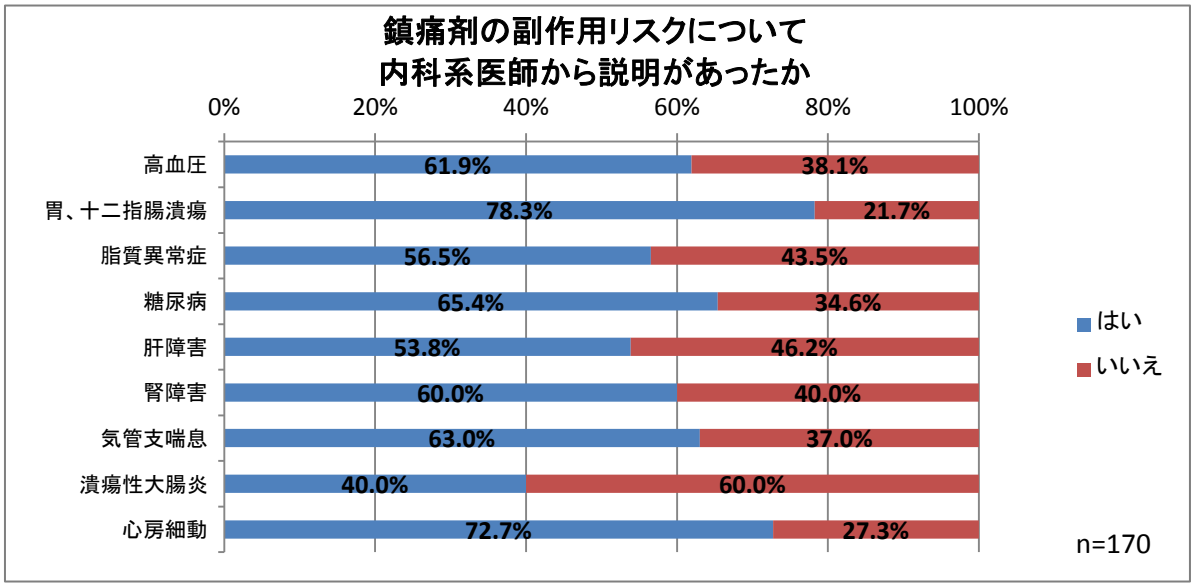


Copyright © QLife, Inc. All Rights Reserved.

【比較2】「医師→患者」の鎮痛剤副作用リスクの情報伝達（疾患別）

鎮痛剤の副作用リスクで、「整形外科医から」と「内科系医師から」の情報伝達度合いに大きな差があったのは、「潰瘍性大腸炎」「胃、十二指腸潰瘍」「高血圧」の患者である。





Copyright © QLife, Inc. All Rights Reserved.

本調査に関するお問い合わせ先:

株式会社QLife 広報担当　田中　智貴
TEL：03-3500-3235 ／ E-mail : info@qlife.co.jp

＜株式会社QLifeの会社概要＞
会社名 :株式会社QLife（キューライフ）
所在地 :〒100-0014　東京都千代田区永田町2-13-1　ボッシュビル7F
代表者 :代表取締役 山内善行
設立日 :2006年（平成18年）11月17日
事業内容:健康・医療分野の広告メディア事業ならびにマーケティング事業
企業理念:医療と生活者の距離を縮める
サイト理念:感動をシェアしよう！
URL：http://www.qlife.co.jp/

Copyright © QLife, Inc. All Rights Reserved.